

- 慶長一八年 郡上藩主・遠藤慶隆、長滝寺神馬堂を建立する
- 寛文三年 石徹白の桜井保正『泰澄和尚伝記』、翌年『白山権現鏡巻』を書写
- 寛文八年 郡上藩主・遠藤常友、白山中宮長滝寺において神前護摩祈願
- 貞享二年 郡上藩主・遠藤常友、長滝向島新田二三石余りを長滝寺に寄進
- 元禄五年 長滝寺、長滝村となる
- 元禄一〇年 石徹白、郡上藩の支配となる
- 享保四年 白山長滝寺開山尊像の開帳を行う
- 元文元年 別山室の支配をめぐり石徹白と越前馬場の平泉寺の公事はじまる
- 寛保三年 石徹白・平泉寺の訴訟裁許となる
- 宝暦二年 石徹白騒動はじまる（宝暦八年に幕府評定所判決が出て決着）
- 天保四年 長滝寺の宝篋印塔建立
- 天保一五年 長滝寺二万人講はじまる
- 嘉永六年 郡上藩主・青山氏、長滝寺に参詣
- 明治元年 明治政府が神仏混淆を禁止、以後全国で廃仏忌運動起こる
- 明治二年 石徹白で神葬祭事件、翌年、郡上役所へ神葬祭について嘆願書提出
- 明治五年 石徹白婦農社人ら大師堂・観音堂を営み仏体類を納める
- 明治七年 石徹白小学校（円周寺仮教場）設けられる
- 明治三二年 長滝白山神社・長滝寺火災にかかる
- 昭和八年 長滝で越美南線工事中に古瀬戸黄釉瓶子（国重文）発掘される
- 昭和三一年 石徹白村の越県合併両町議会で議決
- 昭和三三年 石徹白村の越県合併閣議決定、岐阜県郡上郡白鳥町に編入合併
- 昭和三七年 白山連峰の一带を国立公園に指定
- 昭和四四年 石徹白に岐阜県心のふるさとの家開所
- 昭和四六年 長滝宝物収蔵庫（龍宝殿）完成
- 昭和四七年 石徹白総合庁舎竣工
- 昭和五〇年 石徹白青少年旅行村竣工
- 昭和五四年 石徹白大師堂に銅造虚空像菩薩坐像（国重文）の保存庫完成
- 昭和六一年 石徹白大師堂の銅造虚空像菩薩坐像（伝・藤原秀衡寄進）が、岩手県・中尊寺の一字金輪仏像と並座公開
- 昭和六二年 長滝白山神社参道南・旧北濃村役場に長滝歴史公園完成
長滝の町歴史民俗資料館東にふるさと生活博物館開館
- 昭和六三年 長良川鉄道「白山長滝駅」開駅
- 平成四年 白山長滝公園完成（平成六年に「道の駅」に登録される）
- 平成八年 石徹白に石徹白交流センター「カルヴィライとしろ」開館
- 平成九年 白山長滝公園・道の駅に白山文化博物館開館
- 平成一〇年 カルヴィライとしろ横に「石徹白ふるさと館」開館
- 平成一六年 八幡町・大和町・白鳥町・高鷲村・美並村・明宝村・和良村が合併、郡上市が誕生する

- 養老元年 越の国麻生津(現・福井市三十八町)の僧・泰澄、白山を開く
僧・泰澄、長滝に白山中宮を建立(現・長滝白山神社/長瀧寺)
僧・泰澄、石徹白の白山中居神社の社域を拡張、社殿を修復
- 養老六年 僧・泰澄、阿弥陀ヶ滝を発見、白山中宮に長滝寺を創建
- 天平二年 元正天皇、本地十一面観音・聖観音・阿弥陀如来の三像を奉納
(以降、中宮長滝寺を白山本地中宮長滝寺と称す)
- 天長五年 長滝寺が天台宗比叡山延暦寺の末寺となる
- 天長九年 白山の三つの馬場(美濃・越前・加賀)と禅定道が開かれる
- 斉衡五年 白山信仰の神・白山妙理大権現が天台宗比叡山延暦寺に勧請される
- 天徳二年 越前大谷寺の神興上人により『泰澄和尚伝記』が著される
- 治安元年 長滝寺、後一条天皇の勅命で国家鎮護祈禱、功績により天台別院に
美濃国神名帳に「正四位下小白山明神(白山中宮長滝寺)」がみられ
- 長保三年 権大納言藤原能信により『白山大鏡第二神代巻初一』が著される
- 寛仁年間 長滝寺、飛騨国目代・藤原依堪から大野郡焼野の寄進を受ける
- 寛治八年 白山中居神社の年中行事が記された『越宗廟白山上下年中行事祭祀
巻』が著される
- 保安元年 この年から南宋湖州において宋版一切経思溪版が開版される
(長瀧寺の「宋版一切経」(国重文)もこれに属す)
- 大治元年 藤原秀衡の家臣・桜井平四良正喜と上杉武右衛門宗庸、石徹白へ到着
し、上下の神殿を建立、上下の尊像を祀る
- 元暦二年 源義経、奥州藤原秀衡のもとに逃れる
- 文治三年 白山本地中宮長滝寺、堂舎一四宇が火災にかかる
- 文永八年 伝灯大法師覚海、石灯笼(国重文)を白山中宮長滝寺に寄進
- 正安四年 古瀬戸黄釉瓶子(国重文)を白山中宮長滝寺に施入される
- 正和元年 仏餉鉢(国重文)が白山中宮長滝寺に寄進される
(元亨三年、延文二年にも寄進を受ける)
- 正和三年 足利尊氏、長滝寺に祈願
- 建武三年 長滝寺、延暦寺政所下文を賜わる
- 応安六年 室町幕府將軍・足利義持、長滝寺領河上荘の課役を免ず
- 応永二九年 室町幕府管領・細川勝元、長滝寺に執達
- 長祿元年 美濃国守護代・斎藤利綱、上保の管理権を長滝寺に任せる
- 永正四年 今川義元、石徹白林阿弥に「石徹白において駿河遠江の道者の宿坊
前々の通り」と安堵状を出す
- 天文九年 長滝寺阿名院・神澄、井ノ口で織田信長と対面し制札を受ける
- 永祿一〇年 織田信長、石徹白・白山別山権現に鯛口を寄進
- 元龜二年 金森長近、白山禅定別山大行事権現社殿造立
- 天正一四年 秀吉の武具さらいにより、長滝寺武具供出
- 天正一六年 郡上藩主・稲葉貞通、長滝寺に滞在し、連歌の会を催す
(後日、寺地寄進)
- 文祿元年 長滝寺、未曾有の衰微
- 文祿四年 長滝寺、未曾有の衰微